

専齋 SENSAL



院長年頭所感

幹部職員 新年のご挨拶

年男・年女の今年の抱負

長與 専齋 (1838年～1902年)

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめ採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

院長年頭所感



病院長
江崎 宏典

あけましておめでとうございます。皆様、つつがなく新しい年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。2019年はイノシシ年です。今年の長崎医療センターはイノシシのように勢いのある年でありたいと願っています。

昨年の挨拶でも地域包括ケアシステムと働き方改革について触れましたが、今年も引き続きこの二つが医療界にとって大きな課題であることは間違いありません。地域包括ケアシステムとは介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるようにするための取り組みです。その中心は住まいや生活支援であり、それを介護やかかりつけ医などによる医療が支えています。このように地域包括ケアシステムは基本的に慢性期中心のケアシステムです。それでは急性期病院である長崎医療センターの役割は何なのか？それは急変時のしっかりとした受け皿になることであり、そのことで地域の方々に安心を感じてもらおうことだと考えています。地域包括ケアを維持していくうえでこのようなサポート体制の存在はとても重要であり、長崎医療センターは今後ともその役割をしっかりと果たしていきたいと思えます。

そして働き方改革の方ですが、国や国立病院機構の働き方改革の動きを受けて当院においてもこれまで積極的に取り組んできました。昨年6月には働き方をテーマに第3回しょうぶフォーラムを開催しました。同じく6月には働き方関連法案が国会で可決成立し、本年4月1日から施行されます。この法律の主眼のひとつは時間外労働の罰則付き上限規制の導入です。われわれは自分自身の勤務時間を意識し、また働き方をチェックして見直

すべきところは見直していくことがこれまで以上に重要になります。

話は変わりますが、漢字一字でその年の特徴を表す「今年の漢字」が年末に選ばれていることはご存知のことと思います。年越しの恒例行事ですが、昨年2018年は「災」が選定されています。確かに昨年は西日本豪雨、大阪や北海道での地震そして大型台風と大きな自然災害が日本列島を襲いました。特に9月の北海道胆振東部地震では道内のほとんどすべての電力が停止するという「ブラックアウト」状態が出現し、住民の生活に大きな影響を与えたことは記憶に新しいところだと思います。中でも医療に及ぼす影響は生命に直結するだけに大きく報道もされました。このような大規模災害に備えることの重要性を以前にも増して感じています。大規模災害の続発を受けて災害拠点病院は事業継続計画（BCP）の作成が必須となりました。BCPとは自然災害だけではなくテロ攻撃などの緊急事態時に医療（事業）の継続、機能の早期復旧を可能にするための方法や手段を取り決めておく計画のことです。長崎県の災害拠点病院である当院ではすでに作成済みですが、今後は地域の行政、消防や他の医療機関と共同した訓練などを実施してBCPの検証を進め、今後来るかもしれない大きな災害に備えていく所存です。

さて本年は平成31年です。5月1日の即位の礼を控え、平成もあと4か月を残すのみとなりました。本年は30年間続いた平成に別れを告げ、新しい時代へ入っていく記念すべき年であります。この記念すべき年が皆様にとって素晴らしい年であることを願って私の年頭の挨拶とさせていただきます。

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実にを行い、地域拠点病院として住民と医療機関からの信頼を得る。

1. 安全で質の高い医療を提供する
2. 絶対に断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
3. 地域の医療機関、行政と密接に連携する
4. すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
5. 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する
6. 健全な経営基盤を確立する

新年のご挨拶(幹部職員)

副院長 藤岡 ひかる

新年明けましておめでとうございます。

今年も皆さんにとって、昨年以上に良い年であることをお祈りいたします。昨年暮れから新年にかけて多くの救急患者さんや入院中の患者さんの治療、看護、検査など、忙しかった職員の皆さんも多かったと思います。お疲れ様でした。

今年も消費税率上昇が予定されており、長崎医療センターを取り巻く状況は決して順風満帆ではありません。しかし、皆さんとともに頑張っ乗り越えていきたいと思ひます。

また、今年最大の課題は『働き方改革』です。『働き方改革』自体のコンセプトは、我々の身体そして生活を守るものであることは間違いありません。

しかし、医療の現場では文言通りにいかないこともたくさんあります。『働き方改革』によって生じる不都合（現状と比較すれば）を患者さんに押し付けざるを得ないとしている医療施設もあるようです。しかし、それでは我々医療従事者の使命を全うできません。従来の発想や考え方を変えていくべきです。長崎医療センターの「人財」で、長時間労働ではなく、如何に効率よく職務を遂行していくか。一緒に考えていきましょう。

患者さんを守り、職員の皆さんを守り、急性期医療を担う病院として、その旗を高く掲げ、皆さんとともに頑張って行きたいと思ひます。

今年もどうぞ宜しくお願いいたします。

臨床研究センター長 八橋 弘

臨床研究を開始する前に、臨床研究のeラーニングを受講し毎年更新をおこなった上で、研究計画書を作成して倫理審査委員会に提出、承認されてから研究を開始するという一連の流れが定着したように思ひます。

臨床研究センターではリサーチよろず相談所を設置して、研究を開始する上で不慣れな方を対象として個別に相談に対応している。昨年は看護師さんや薬剤師さんからの相談が多かったが、日々の忙しい診療の中で疑問に思ったことや改善すべきことをうまく探して、良い研究テーマを選んでいることに感心する。ただ作成された患者さん向けの説明文書を確認しながら読んでみると、「患者さんが読まれた時にどのように思われるかな、

不快に思われるのではないかな。」という内容や表現に遭遇することもある。

書き言葉だけでなく話し言葉も、その人の考えや気持ちを100%表現するものであるから、「どのような言葉を用いるのが良いのか、どのように表現したら最も患者さんに伝わるのか、この言葉を逆に言われた時に君はどのように感じ受け止めるだろうか」と話しながら共に考えるようにしている。

「言葉が病院をつくる」、研究の説明同意文書だけでなく日々の診療においても、悩みや苦しみをかかえている患者さんを励ますような言葉にあふれる病院であり続けたいと思ひている。

統括診療部長 吉田 真一郎

新年あけましておめでとうございます。

昨年も院内外の関係の皆様には大変お世話になり、また多くのご支援とご協力をいただきました。どうもありがとうございました。本年も、現場の目線を大事にすることを心がけながら、診療部各部署が十分かつ円滑にその役割をはたすことが出来るよう、しっかりとまとめ役、調整役を務めていく所存です。また地域におきましても、より良い病診連携、病病連携の関係の構築に向けて、さらに積極的な活動をすすめて参ります。本年も引き続きご指導、ご支援のほど、どうぞよろしくお祈りいたします。

長崎医療センターはこの地域における拠点病院とし

て、より高いレベルの医療の提供、そして教育、研究の体制の充実を求められています。一方で、職員の皆さんがそれに疲弊することがなく、充実した働きやすい職場環境となるように、働き方改革を考え、進めていく必要があります。職員一人一人において、ワークライフシナジー、相乗効果をもたらされるような仕事と生活の双方の充実につなげていけるように、本年も皆さんと一緒に考えながら、職場環境の充実に取り組んで行きたいと思ひます。皆さんのご協力をどうぞよろしくお祈りいたします。

最後になりましたが、本年が皆様にとりまして、素晴らしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



新年のご挨拶(幹部職員)

事務部長 藤野 弘幸

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

年末は、新情報系 Hospnet への移行作業に職員皆様のご協力をいただきありがとうございました。国立病院機構の情報セキュリティ強化の一環としてネットワークの分離、常時監視、情報漏洩の被害の最小化のため12月末までに移行する必要がありました。新IT基盤整備は2月まで行われますので、引き続きご理解とご協力をお願いします。

本年4月より労働基準法の改正が行われ、36協定時間の超過、年休の取得日数不足の場合、監督者等が罰則の対象となります。「働き方改革」は喫緊の課題であり、長時間労働の削減に向けた取り組みを引き続き進め

てまいります。また、外部相談窓口設置などハラスメント防止対策の強化が図られましたので今後も適切に対処してまいります。

「経営状況の改善」も急務であります。平成29年度の経常収支はプラスに転じたものの、長期借入金の返済は計画通り進捗していない状況であります。経営改善計画へのご理解をお願いします。昨年、国立病院機構のモデル事業として医事コンサルを導入しました。3月には導入効果を報告できると考えております。

「地域医療構想」の実現に向けて、医師会、県市町村等とコミュニケーションを図り、当院の医療機能について理解を得てまいります。

事務部門として、情報共有と思いやりをもって様々な課題に取り組んでまいりますので今年もよろしくお願いいたします。

看護部長 原田 久美子

新年あけましておめでとうございます。新しい年が始まりました。今年、約30年続いた平成の時代に幕を閉じ、5月1日から新しい元号が始まります。当院の動向としましても病院機能評価の受審に向けた準備年になります。このことから大きな変化が予測され、様々な活動が求められる年になります。

当院に昨年4月着任し、はや9か月が過ぎました。この間、当院の使命である安全で質の高い医療の提供、救急医療の最後の砦となる気概、地域拠点病院として住民・医療機関からの信頼を得ることなど、職員全員がこの使命感をもって病院が動いていることを実感しました。特に、これらの医療の提供に看護の力は欠かせません。様々な分野で、専門職としての個々の力を結集して、より質の高い看護を患者さんや地域の住民皆様に提供している看護職員に感謝申し上げます。

ここ最近、多様性をいかにした看護の提供が話題となっており、様々な学会のテーマとして取り上げられています。

時代の流れの中で、患者さんも医療を提供する私たちも、価値観・生活が多様化しており、あらゆる方向への拡がりに柔軟に対応することが求められています。患者さん・職員一人ひとりの個性を尊重し、すべてをプラスに転じるには、自分自身の懐の深さが求められます。互いがコミュニケーションを深める中で、互いの意思を尊重することが大事であり、ここから個や組織の柔軟性が生まれるものと思います。このことを意識し、今年も「その人がその人らしく」の看護理念を胸に、さらなる暖かな看護を提供していきましょう。

また、働き方改革の動きもあり、これまで以上に多職種との連携・調整も必要です。専門職の役割拡大、タスクシフト・タスクシェアを検討し、患者・職員双方に満足してもらえるような医療環境・職場環境の整備に皆さんの力もお借りしながら尽力したいと思います。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

年男・年女の今年の抱負

新年あけましておめでとうございます。

毎日あわただしく過ごしている中、気がつく4回目の年男を迎えていました。気持ちだけは若いつもりで働いていますが、体力面、視力面等、20代、30代の頃と比べるとやはり衰えを感じずにはられません。しかし、ここまで大した病気もせず第一線で働くことができていることを幸せに感じて、今後も地域の皆様のお役に立てるよう、さらなるスキルアップを目指して日々精進していきたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

泌尿器科医長 大仁田 亨

新年あけましておめでとうございます。

長崎医療センターで管理栄養士として働き始め、早1年が経とうとしています。右も左も分からない社会人1年目でしたが、周りの方々の温かさに支えられここまですることが出来ました。

今年は私にとって2回目の「亥年」です。今年就職して2年目の年になりますが初心を忘れず、さらに管理栄養士としてのスキルを身につけるべく、亥年に因んで日々「猪突猛進」していきたいと思っています。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

栄養管理室 多田 雪菜